

輸入日本脳炎ワクチンの予防接種を受けられる方へ

ワクチン接種の適応

日本脳炎はアジアで広く流行しており、蚊によってブタから人に伝播します。

ウイルスを保有する蚊に刺されても多くの人は症状が出ません。感染した人のうち、100人から1,000人に1人の割合で発病するといわれています。通常6～16日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔気、嘔吐がみられます。次いで、意識障害、けいれん、異常行動、筋肉の硬直などが現れます。重症例のうち50%が死亡するといわれ、生存者の30～50%に精神障害や運動障害などの後遺症が残るといわれています。

定期の予防接種を完了していても、予防接種の有効期間は3～4年といわれています。流行地域（特に農村部）に長期間渡航される方は、追加で1回接種し、以後3～4年ごとに接種することが勧められます。虫よけスプレーや蚊取り線香などを利用し、肌を露出しない服装を心がけましょう。

ワクチンについて

使用ワクチン：Jenvac（Bharat Biotech 製）

0.5 mL (25 mg)の用量を1-2回筋肉内接種します。

国内で承認されている日本脳炎ワクチンが手に入りにくいいため、輸入ワクチンを使用します。

ワクチンの安全性と副作用

接種部位の発赤、腫脹や痛み、倦怠感、頭痛などが起こる場合があります。ワクチンを接種してはいけないのは、過去に日本脳炎ワクチンで重度の局所反応や全身性反応を起こした場合と発熱している患者です。

注意事項

輸入ワクチンのため、副反応が生じた時は国の救済措置、補償が適応されませんが輸入商社が提供する輸入ワクチン補償制度を利用できます。制度の利用には、裁判で輸入ワクチン接種による被害であることが認められる必要があります。輸入ワクチン補償制度以外は当院では補償できません。